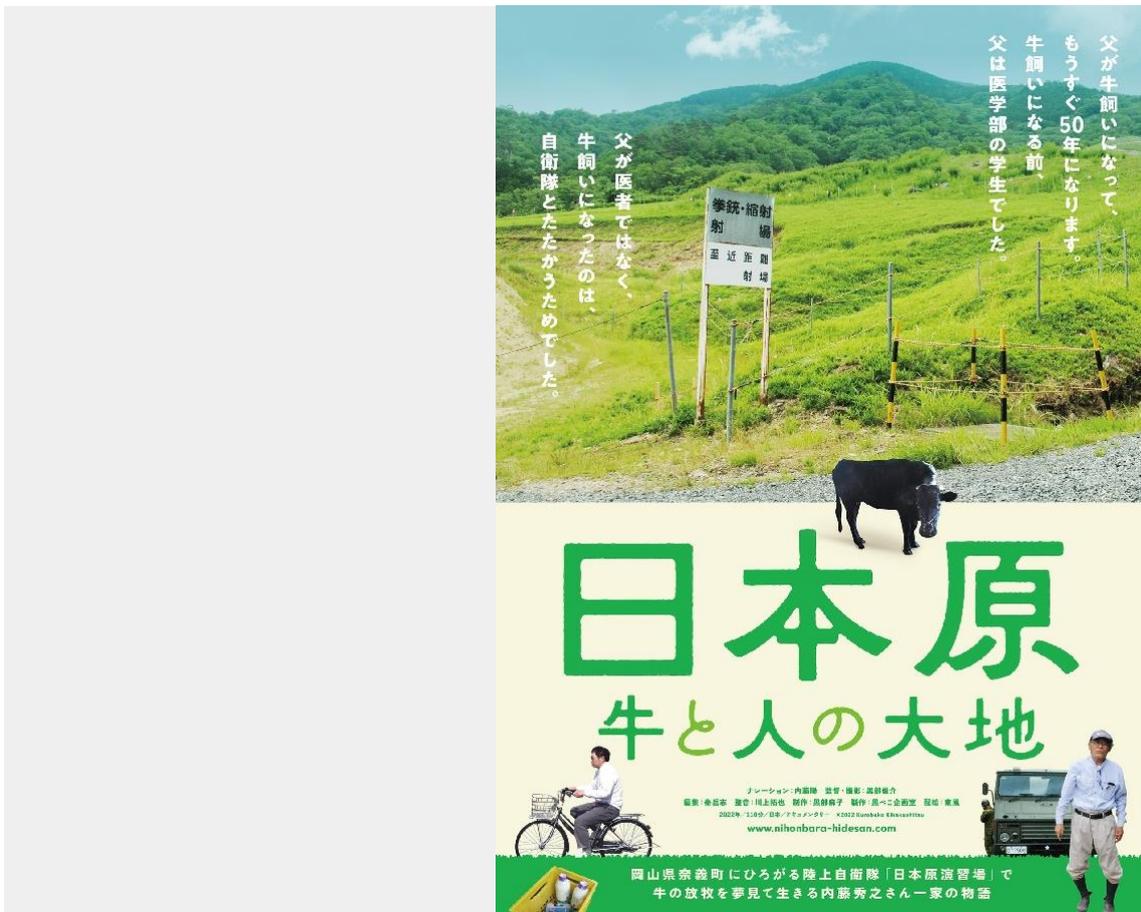


2022年10月14日

内藤秀之さん一家を追った映画『日本原 牛と人の大地』

松岡利康



映画『日本原(にほんばら)牛と人の大地』

上に掲載しているように、『日本原 牛と人の大地』という映画が全国のミニシアターで上映中です。朝日新聞 10月7日夕刊に映画と、主人公の内藤秀之さんのことが掲載されていました。

この映画は、半世紀余りに学生運動で頑張った方が、それまでとは違うやり方で基地反対運動に半世紀も頑張られたヒューマン・ドキュメントです。

内藤さんは、私も2、3度お会いしたことがあります。朴訥としたお爺さんで、この人が、若い頃は学生運動の闘士、それも党派(プロ学同。プロレタリア学生同盟)の活動家だったとは思えません。若い頃にはブイブイいわせていたのでしょうか。

プロ学同は構造改革派の流れを汲む少数党派で、指導者は笠井潔さん(当時のコードネームは黒木龍思)や戸田徹さんら、かの岡留安則さん(故人。元『噂の真相』編集長)もこの党派に所属していました。生前直接聞いています(氏との対談集『闘論 スキャンダリズムの真相』参照)。

構造改革派は、過激な闘いではなく、ゆるやかな改革を目指す勢力でしたが、学園闘争や70年安保—沖縄闘争の盛り上がりと時期を同じくして分裂し、その左派のプロ学同やフロントは新左翼に合流しラジカルになっていきました。右派は「民学同」=「日本の声」派で、その後部落解放同盟内で勢力を伸ばしていきます。

さて、69年秋は70年安保闘争の頂点で、内藤さんの後輩の糟谷孝幸さんは11月13日、大阪・扇町公園で機動隊の暴虐によって虐殺されます。



火炎瓶で火の海になる
扇町公園前
…大阪1969/11/13



糟谷 孝幸 (かすや たかゆき)

1948年8月8日兵庫県加古川市に生まれる。加古川市立川西小学校、学校組合立宝殿中学校を経て、県立加古川東高校へ。1968年岡山大学法文学部に入学。岡山大学全共闘で活動。1969年11月13日、佐藤訪米阻止大阪扇町闘争のデモで荒木幸男ら3機動隊員の暴行を受け扇町公園南側路上で逮捕。翌14日に死亡。享年21。

1969年11月13日、大阪・扇町公園で機動隊の暴虐によって内藤さんの後輩の糟谷孝幸さんは虐殺された

下記新聞記事では、牛飼いになったのは「友人の死だった」とし(「友人」というより「後輩」でしょう)、「デモ隊と機動隊が衝突し、糟谷さんは大けがを負って亡くなった」と客観的に他人事のように記述されていますが、この頃の闘いは、まさに生きるか死ぬかの闘いで、熾烈を極めました。学生にも機動隊にも死者が出ています。それをマスコミは「暴力学生」のせいと詰(なじ)ったことを、くだんの記事を書いた朝日の記者は知っているのでしょうか!?

語り継ぐ 1969

糟谷孝幸追悼50年 —その生と死

糟谷孝幸50周年プロジェクト〔編〕

ベトナム反戦！日米安保反対！沖縄米軍基地永久化反対！

職場・地区反戦青年委員会の労働者、全共闘の学生、
べ平連などの市民が、激しい直接行動に立ちあがったあの時代。
その一人、糟谷孝幸は警察機動隊の暴力に命を奪われた。
同時代を生きた人々が、コロナ禍の中、思いを熱く語った。

明日へつながれ！

社会評論社

『語り継ぐ 1969 — 糟谷孝幸追悼 50 年 その生と死』(社会評論社)

その後内藤さんは、ここが私たちのような凡人と違うのは、医学生への途をきっぱり拒絶し、糟谷さんの遺志を胸に人生を懸けて基地反対闘争を貫徹するために牧場家に婿入りしたというのです。

爾来半世紀近く黙々とこれを持続してこられました。当時流行った言葉でいえば「持続する志」です。

内藤さんの営為は、日本の反戦運動や社会運動の歴史、個人の抵抗史としても特筆すべきもので記録に残すべきです。

.....と思っていたところの、この映画です。

また、これに先立ち内藤さんは、後輩活動家の糟谷さんの闘いの記録を残すために奔走されました。

一緒に決戦の場に向かった後輩が志半ばにして虐殺されたことが半世紀も心の中に澱のように残っていたのでしょう。

多くの方々のご支援で、これは立派な本として完成いたしました。そうして、今回の映画となりました—。